

# 第5章 持続可能な社会を担う人づくり

## 第1節 環境学習・環境教育の推進

### 1 環境学習・環境教育の推進

#### (1) 環境教育副読本

本市では、1996年度（平成8年度）から、環境教育副読本「わたしたちのくらしと環境」を作成し、市内の小学校に配付してきました。

2022年度（令和4年度）からは、この副読本をデジタル化し、本市ホームページ（環境情報サイト「くわいちゃんネット」）に掲載し、市内の小学校を対象とした環境やごみに関する出前授業において、活用しています。



#### (2) 出前授業・出前講座

本市では、学校教育や社会教育の場における環境学習を推進していくため、小・中・高校生や地域住民を対象に、ごみや環境に関する出前授業・出前講座を行っています。

市内の小・中学校では、社会科や総合的な学習の時間などにおいて、環境をテーマに、地域の特色を活かした環境学習に取り組みました。

<2023年度（令和5年度）実績>

	廃棄物		水・大気		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
保育所	0	0	0	0	0	0
幼稚園	0	0	0	0	0	0
小学校	12	804	8	526	20	1,330
中学校	1	17	0	0	1	17
高等学校	1	345	0	0	1	345
その他	21	893	5	167	26	1,060
計	35	2,059	13	693	48	2,752

### (3) 環境講座

#### ア 環境保全講演会

日 時	2024年(令和6年)2月22日(木)
開催形式	対面とライブ配信(Zoom)を併用したハイブリッド形式
講 師	マシンガンズ 滝沢 秀一氏(お笑い芸人)
テ ー マ	マシンガンズ滝沢と考えるごみ問題～清掃員から見た景色～
内 容	毎日出されるごみの削減方法や、ごみ問題の解決方法など、 ごみ収集時の体験などを交え、お話していただきました。
来場者数	269人
配 信 数	127組



### (4) 環境関連施設等バス見学

箕沖地区の次世代エネルギー施設やごみ処理施設、リサイクル施設などの環境関連施設を対象に、市民団体を対象にした借上げバスによる見学を実施しています。(2023年度〔令和4年度〕は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止)

### (5) こどもエコクラブ

子どもたちの自主的な環境学習を支援するために、環境省では1995年(平成7年)から「こどもエコクラブ事業」を実施しています。本市では、2023年(令和5年)3月末現在、1クラブが登録しています。

環境教育・環境学習で扱われる内容は、身近な環境問題やごみ問題に関するものから、環境科学に関するもの、更にはライフスタイルや社会経済活動に関することまで多岐にわたっています。

## 2 環境学習資材の提供

本市では、多くの市民に環境問題について関心を持っていただくため、環境啓発パネルなど環境啓発用品の貸出を行っています。

### <2023 年度（令和 5 年度）実績>

種 類	貸出回数	貸出枚数
3R	1	5
地球温暖化	0	0
絶滅危惧種	0	0
生物多様性	0	0
合計	1	5

## 第2節 環境啓発の推進

### 1 環境体験講座の充実

#### (1) 環境体験講座等

福山市リサイクルプラザでは、施設の見学や視察の受入れを行うとともに、環境体験講座や情報提供の場を設け、ごみの発生抑制やリサイクルの啓発推進を行っています。

#### ・事業内容

内容	年度	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）	
		回数	人数	回数	人数
来館者数計		12,976人		21,209人	
環境体験講座	13回	688人	25回	1,534人	
貸館業務	24回	289人	17回	111人	
視察・見学	45回	1,840人	59回	1,839人	
イベント等	4回	10,014人	2回	1,340人	
施設利用	—	145人	—	16,385人	

#### (2) 水生生物調査

川の中には、魚、水生昆虫、貝、ヒル、イトミミズなどたくさんの生物が生息していますが、水がきれいであるか、汚れているかによって生息する生物の種類が異なります。その性質を利用して、川の汚れがどのくらいか、簡単に調べる方法として「水生生物による水質の調査法」が環境省と国土交通省の合同で示されています。指標（ものさし）となる生物の生息状況を調べることによって、水の汚れの状態を“きれいな水（水質階級Ⅰ）”“ややきれいな水（水質階級Ⅱ）”“きたない水（水質階級Ⅲ）”“とてもきたない水（水質階級Ⅳ）”まで大きく4つのランクに分けることができます。

特別な道具を必要とせず、比較的簡単に調査することができることから、水辺に親しみながら体験的な学習をすることができます。

2023年度（令和5年度）は、学校、市民団体等13団体693人が参加し、市内の8河川で調査を行いました。



### (3) 磯の生き物調査

磯に生息している生き物を指標として、海域の水質状況を判定する方法で、「磯の物による水環境の簡易評価法」があります。緑藻類、紅藻類、甲殻類、貝類、カイメン類、ホヤ類など大きく6種類の生き物の生息を確認することにより、海の汚れの状態を“大変きれいな海”“きれいな海”“ややよごれた海”“よごれた海”まで大きく4つのランクに分けることができます。

この調査では、環境教育の一環として、環境カウンセラー及び環境保全アドバイザーを講師として招き、不思議な生き物の発見等、海辺に親しみながら仙酔島の水環境の評価を行いました。

日 時 2023年(令和5年)7月1日(土)13時00分～17時00分  
場 所 鞆公民館、仙酔島(海食洞付近)  
対 象 環境保全に関心のある市内の小学生  
参加者 49人



## 2 環境イベント等での啓発

### (1) ごみ収集車による啓発活動

#### ア ごみ収集車のナンバープレートを「530〔ごみゼロ〕」に統一

(2007年〔平成19年〕9月～)

環境センターのごみ収集車のナンバープレートを「530〔ごみゼロ〕」に統一しています。



#### イ ハイブリッドディーゼルのごみ収集車、ダンプ車を導入

(ごみ収集車 2008年〔平成20年〕11月～、ダンプ車 2009年〔平成21年〕12月～)

ごみ収集における二酸化炭素排出量削減をめざす取組の一環として、ディーゼルエンジンと電動式モーターを組み合わせた「ハイブリッドディーゼル」のごみ収集車及びダンプ車を導入し、各環境センターに配備しています。



ハイブリッドディーゼルのごみ収集車    ハイブリッドディーゼルのダンプ車

## (2) 「くわいちゃん」による啓発活動

「くわいちゃん」は、2007年度（平成19年度）に環境をより身近に感じ、そして効果的な事業を展開するため、市にちなんだ動植物、特産物、自然などを生かした環境イメージキャラクターを募集し、多くの応募の中から「くわいちゃん」が選ばれました。まっすぐのびた芽でエコな情報をキャッチし、みんなにエコな芽が出るように各環境イベントやパンフレットなどで使用し啓発活動を行っています。

また、環境部所有の電気自動車には「くわいちゃん」のイラストを掲示して、脱炭素社会を推進する環境にやさしい車両として、市民への啓発に使用しています。

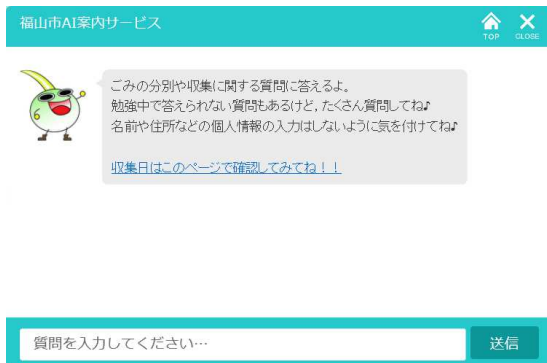


福山市環境イメージキャラクター  
「くわいちゃん」



## (3) 「ごみ分別ガイド」の福山市 AI 案内サービス

2020年（令和2年）10月28日からAIチャットボットサービス「福山市 AI 案内サービス」を実施しています。ごみ分別等の問い合わせに、対話形式で自動回答する「ごみ分別ガイド」を導入しています。2023年度（令和5年度）は、合計で21,177件の問い合わせがありました。



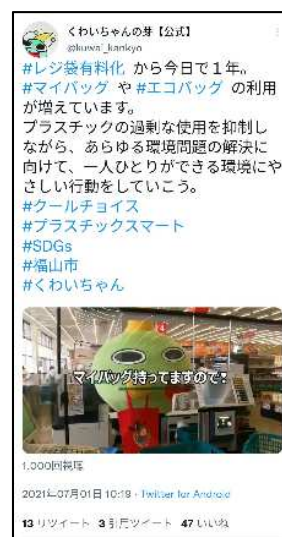
「ごみ分別ガイド」入力画面

#### (4) 環境部公式 X (旧 Twitter) アカウント「くわいちゃんの芽」による情報発信

2021年(令和3年)4月1日から環境部公式 X (旧 Twitter)「くわいちゃんの芽」による情報発信を開始しています。

福山市リサイクルプラザなどのイベント情報や身近な環境情報などを配信しています。

フォロワー数は、751人となっています(2024年〔令和6年〕3月末現在)。



#### (5) 環境企画展

##### ア 外来生物企画展

外来種問題や、その影響を知り、身近なところから行動をおこすきっかけとなるよう、福山大学学友会海洋生物研究会の協力のもと、外来生物企画展を開催しました。

日 時 2023年(令和5年)8月11日(金)～8月13日(日)  
場 所 福山市リサイクルプラザ  
来館者数 189人



## イ 外来アリ企画展～福山で見つかったアルゼンチンアリとヒアリ～

福山市で確認された特定外来生物であるアルゼンチンアリとヒアリについて正しい知識を持ってもらうとともに、福山市の取組について多くの市民に知ってもらうことを目的として、パネル展示を行いました。

日 時 2023年（令和5年）10月28日（土）～11月19日（日）  
場 所 福山市リサイクルプラザ  
来館者数 1,177人



## (6) “3R推進月間・食品ロス削減月間” ミニイベント

10月の「3R推進月間」「食品ロス削減月間」に合わせ、2021年度（令和3年度）に「包括連携協定」を締結した生活協同組合ひろしまと共同で、食品ロスに関するパネルの展示や、お楽しみブースなど、複数の催し物を実施しました。

日 時 2023年（令和5年）10月15日（日）10時00分～15時00分  
場 所 福山市リサイクルプラザ  
参加者 441人（内フードドライブ参加者220人 持込件数65点）





## 第3節 環境コミュニケーションの推進（公害苦情）

### 1 定期的な意見交換

#### シャープ福山レーザー株式会社の事例

シャープ福山レーザー株式会社（大門町旭1番地）では、積極的に地域住民とのコミュニケーションを推進するために、事業者、地域住民（野々浜学区）、行政（福山市）の三者による事業所排水の採水測定を行っています。三者が集まって排水を採水して、それぞれ別の分析機関にて分析を行い、後日その結果を持ち寄り照合して、問題がないことを三者で確認しています。三者が集まり、排水の話だけではなく、様々な意見を交換できる機会の一つにもなっています。



三者採水の様子（出典：SHARP 2023年度 福山事業所 環境レポート）

### 2 公害苦情

#### （1）公害苦情に係る相互理解の促進

公害苦情解決の主な解決内容をみると、大気汚染については、野焼きの中止、焼却炉の適正管理に努めるなどです。

水質汚濁については、排水処理施設の設置、施設の適正な維持管理、汚泥・油の回収などです。

騒音・振動については、窓・シャッターを閉めての操業、音響機器などのボリュームを下げる、早朝・夜間の作業には気をつけるなどです。

悪臭については、設備の改善や原因物質の除去等により改善しています。

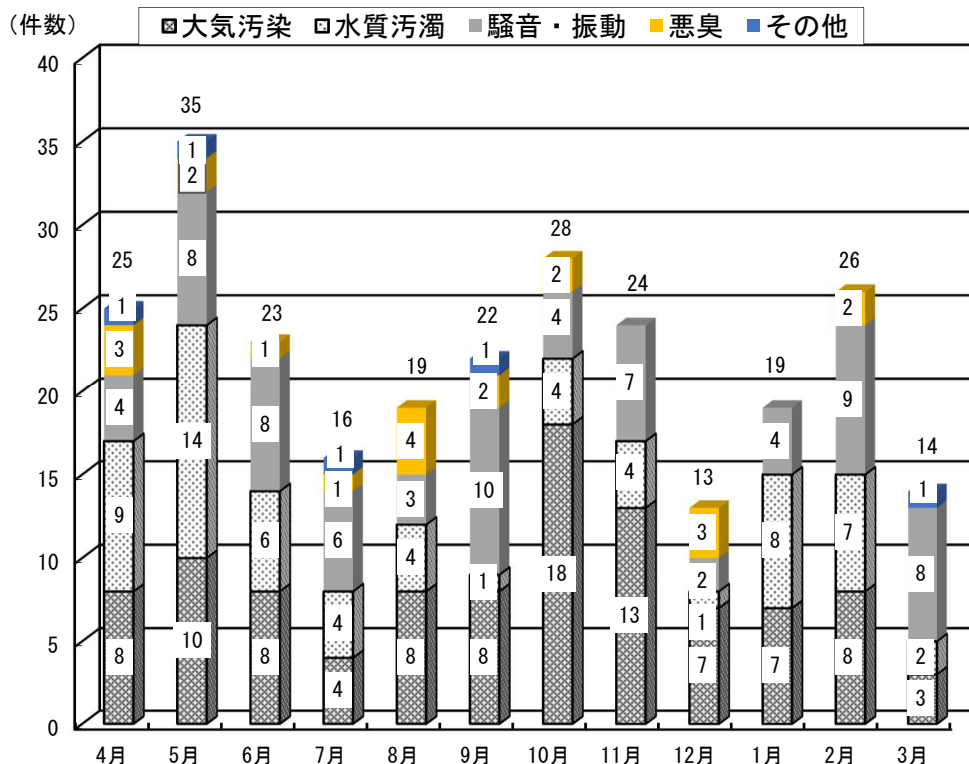
このように、公害苦情の多くは、発生源に対する適切な指導と、発生源者が周囲の環境に配慮した操業を心掛けることで解決します。

#### （2）年度別及び月別苦情件数

2023年度（令和5年度）に、市民から寄せられた公害苦情件数は264件でした。

その種類別内訳は、大気に関するもの102件（38.6%）、水質に関するもの64件（24.2%）、騒音・振動に関するものが73件（27.7%）、悪臭に関するもの20件（7.6%）、その他が5件（1.9%）となっています。

## 2023年度（令和5年度）月別苦情件数



## 公害苦情件数の経年変化

